

しづが身も しばしば雲の上人と
なりて越來し 石狩の山

宗切（飯田豊之助）

（たいした身分でもない私ですが

この旅では雲を越えるような高い山に登り

雲上人の気分を味わつて

石狩の山を越えてきました）

一同が存分に酔い、道案内をしてくれた石狩山中のアイヌたちなどへそれぞれ土産物や報酬をそろえて皆の者に配りました。

3月19日

石狩からずつと一緒だった飯田氏はここから広尾の方に向かい、アイヌたちは再び山に入つて石狩へ、私は釧路の方へと三方に分かれて出発しました。ここで一首を戯れに歌いました。

あつぶすま 今宵は雲にしきかへて

あくまで 飯をして いざねむ

弘（松浦武四郎）

（今日までは野宿続きだったが、今夜は雲のようにやわらかな布団で眠れる

思う存分飲み食いをして、さあ、寝るとするか）

安政5年（1858年）十勝日誌 終



十勝川河口

多くの支流を集め、太平洋へとそそぐ。